2015年
入試用

学校説明会レポート

ICHISHIN
市進

都立両国高等学校
都立両国高等学校附属中学校

日時	2014年6月28日（土）10時00分～11時30分
所在地	墨田区
会場	視聴覚室
対象	塾
出席者数	約40名
配付資料	説明会資料、2015年学校案内（中・高）、両国の教育、過去問題・解答例、ポスターなど

説明会の概要

あいさつ　大井校長　10：00～10：12

●教育委員会は当初、都立の中高一貫校に対し、「６年かけてしっかりリーダーとなる人材を育てる」よう指示していました。それが今は「進学実績を出す」ことが目標となっています。本校よりもクラス数の多い日比谷高校などと同等の合格者数が求められるだけでなく、６年間という長期の指導期間のメリットから、もっと高い実績が望まれています。本校なりにしっかり受け止め、取り組んでいこうと考えています。

●2014 年の高校入試では、地元の生徒が減り、文京区・板橋区・杉並区などが増加しました。この変化の要因として、①推薦の枠が 30%→20%と変更、②自校作成問題→グループ作成問題への変更、などがあると分析しています。電車通学に憧れて日比谷・青山・戸山などを目指す受験生が多いのかも知れませんが、ぜひ地元のトップ校である両国高校に進学してほしいものです。

中学校について　中学校副校長　渋谷先生 10：12～10：25

●2014 年度の中１生は中学開校第９期生です。府立三中からの「自律自修」の伝統を受け継いでいます。

●校舎内の位置は、２階が中１・中２、３階が高３、４階が高２で、５階が中３・高１で

す。中３生は同じ階に高１生がいるので、１年後の自分を想像しやすくなっています。

●５月の遠足では、中２生は都内の 19 か国の大使館をグループに分かれて訪問し、英語でインタビューをします。７月末にはアメリカ・ユタ州への海外研修があり、１人ひとりが別のホストファミリーに宿泊します。

《適性検査について》

●2015 年 12 月に東京都教育委員会からグループ化が発表され、現在各中学で問題のサンプルを作成中です。

高等学校について

高校副校長　藤井先生 10：25～11：00

●都立高校のうち併設型の高校の生徒募集が全体的に課題を抱えた状態となっていますが、本校は、倍率の高さから判断して十分な支持を受けている、と考えています。

《入試》

●2014 年春の推薦入試は、調査書 500 点＋集団討論・個人面接 250 点＋小論文 250 点の 1000 点満点で判定しました。詳細の正式発表は 10 月ですが、2015 年も変更の予定はありません。推薦の定員枠が 2014 年から 20%に変更（←2013 年は 30%）されました。本校は全体の募集人数が 80 名なので、その 20%となると男女各８名計 16 名という少ない募集枠となっています。

●募集人数 80 名の内訳は、転入者枠が２名、推薦が男女各 8 名、学力検査による募集が男女各 31 名でした。特別選考は学力検査による募集のうちの１割で、男女各 3 名でした。特別選考は合否判定に調査書を使わない選抜で、出席状況など何らかの理由で内申点が低いが実力はある、という受験生に対応するものです。近年、“特別選考狙い”とでも言えそうな受験生がいて、しかも増加傾向にあります。

●居住地については、高入生では地元の墨田区の生徒が減少しました。

《進学実績》

●2013 年春は、現役国公立大学進学の割合が 35.20%と高くなりましたが、2014 年春はこの割合が少し下がりました。原因として、2014 年春は浪人を避けたいという気持から私立大を受験する生徒が例年より多く、国公立大の二次試験の準備がうまくいかなかったためです。また、併設型の都立高は、適性検査を実施するためにこの時期学校中が慌ただしくなるのも一因と考えています。今後は、この時期に落ち着いて学習できる環境づくりを整えていきます。外部からは、高い実績をあげている要因は中入生では、という見方をされますが、そうではなく、高入生だけの比較でも他の都立高に引けを取りません。

説明会の雰囲気・印象

●内容は盛りだくさんでしたが、どの先生も手際よく話され、わかりやすい説明会でした。答えられる範囲でなるべく多くの情報を、との配慮が感じられ、真剣な中にも和やかな雰囲気がありました。

学校周辺の環境

●錦糸町駅から程近い国道 14 号線沿いにありますが、駅の喧騒からは離れています。正門は大橋川近くのマンションに面しており、落ち着いた環境です。

交通

● JR 総武線、東京メトロ半蔵門線　錦糸町駅から徒歩５分
都営地下鉄新宿線　住吉駅、菊川駅から徒歩 10 分